

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第5号

2004年1月31日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

一年を振り返って

昨年2月に本会が発足して以来、早くも一年が経とうとしています。この間の主な活動を写真で振り返ります。



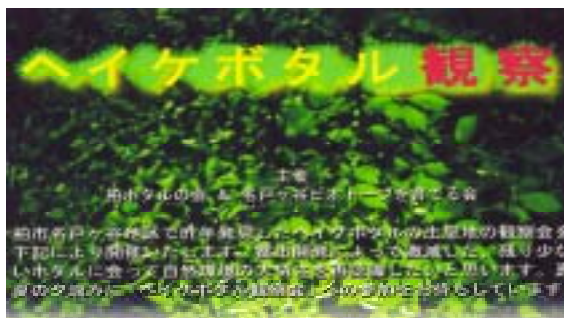
4月6日 水路・水温調整池づくり



5月17日 田植え（不耕起稲作部会）



5月20日 ザリガニ釣り大会（名戸小）



7月19～20日 800名参加（名戸ヶ谷病院横）



9月13～14日 稲刈り



9月23日 脱穀（水田稲作部会）

総会のお知らせ

日時：2月14日（土）午前10時より 場所： 柏市中央公民館 5階講堂
来年度より規約を改正し、個人会員2000円、家族会員3000円の年会費を徴収する提案等があります。会員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

ビオトープ生態系調査

11月23日(日)にビオトープ生態系調査を行いました。当日は晴れ、気温14°C。今回は動物と植物を同日に調査しました。植物担当に岩瀬徹氏、動物に浅間茂氏と柄沢保彦氏を講師に、会員11名の参加で実施しました。今回の調査は6月の実施した調査の補足という位置付けでした。調査は講師と参加者が一緒にビオトープ内に入り、発見した動植物について講師から解説を受けながらBゾーン全体を回りました。後半では各自が網を持って採集し、その成果を持ち寄り、講師から解説を受けました。



ビオトープ生態系調査生物リスト(植物編)

名称	15年度	
	春	秋
アシカキ	○	
アメリカセンダングサ		○
イ	○	○
イヌスギナ	○	
ウキヤガラ	○	
オオバコ	○	
オナモミ		○
オニノゲシ	○	
オヤブシラミ	○	
オランダハッカ		○
ガガイモ	○	
ガマ	○	○
カラスノエンドウ	○	
キクイモ	○	
コガマ	○	○
コブナグサ		○
セイタカアワダチソウ	○	○
セリ	○	○
チガヤ	○	
ツメクサ	○	
ウルマノ	○	
ドクダミ	○	○
ニワゼキショウ	○	
ヌスビトハギ	○	
ネズミムギ	○	
ノゲシ	○	
ハコベ	○	
ハルジオン		○
ヒメガマ	○	○
ヒメジョオン	○	○
ブタナ	○	
ホタルイ	○	
マコモ	○	○
マツカサススキ	○	
ミソソバ	○	○
モント	○	
ユウゲショウ	○	
ヨシ	○	○

植物について

調査時期が11月下旬でしたので、6月の調査時期と比べて、発見された種は34から16へと減っていました。今回の調査で新たに発見された種では、**オモナミ、コブナグサ、ハルジオン**等が挙げられます。6月の調査と今回の調査に共通して発見された種としては**アメリカセンダングサ、イ、ガマ、コガマ、セイタカアワダチソウ、セリ、ドクダミ、ヒメガマ、ヒメジョオン、マコモ、ミソソバ、ヨシ**等が挙げられます。

動物について

冬を控えて活動が不活発な時期のせいも、発見された種は6月の34種から15種へと激減していました。今回の調査で新たに発見された種としては、**アカムシ、イトミミズ、オンパバッタ、コバネイナゴ、コモリグモ、ドジョウ、モツゴ**、等があげられます。

ビオトープ生態系調査生物リスト(動物編)

名称	(1)	(2)	(3)	(4)	数
アヒル					+
アヒル					○
アヒル		+	+	+	
アヒル			+		
アヒル	+++	+++	+++	+++	
アヒル	+++	+++		+++	○
アヒル			+		
アヒル					○
アヒル					○
アヒル					○
アヒル	+++	+++	+++	+++	○
アヒル		+			
アヒル			+		
アヒル		+			
アヒル			+		
アヒル	+++				
アヒル			+		
アヒル	++				
アヒル					○
アヒル		+			○
アヒル			+	+	
アヒル					○
アヒル	+				
アヒル				+	
アヒル					○
アヒル	+				
アヒル		+			
アヒル			+		
アヒル			+	+	
アヒル					○
アヒル	+++	++	++		
アヒル		+			
アヒル			+		
アヒル			+++	++	
アヒル	+				
アヒル	++	++			
アヒル		+			
アヒル		+			○
アヒル			+		
アヒル			+	+	
アヒル			+++		
アヒル			+		
アヒル	+++	+++	+++	+++	
アヒル	+				
アヒル					○

今後の生態系調査について

ビオトープ生態系調査は、今回の補足調査で2回目を迎えます。次年度も春・秋に生態系調査を実施する予定ですが、実施時期やとりまとめの方法、役割分担等、初年度の経験を生かして次回の計画に反映させていきたいと考えています。(環境保全課 橋爪)

※ +++多数に多い、++多い、+1個体でも見られた種
○ 春と秋と両方確認された種

不耕起稲作部会

1. **お米の精米・配布**： 不耕起米を全て精米しました。精米での総重量は 169.9kg、名戸ヶ谷小学校へ昼食一回分として 26kg 贈呈しました。収穫祭用に使用し、お世話になった方へも贈呈し、残りは関係者に配布しました。多くの方から寄付金を頂き、65,000 円を浄財として会計へ納めました。



2. **お正月用稲藁づくり**： 不耕起米の稲藁でお正月用の飾り作りを 12 月 27 日（土）に行いました。影山さんの指導と木村さんの応援・指導で（写真右上）寒さを忘れ頑張りました。最初はなかなか思うように出来ず苦戦しましたが、最後は満足の出来で、家族へよいお土産となりました。自作のお正月飾りを見ながら米作りに挑戦した一年を思い、新年に向け再挑戦へと話題の多いお正月となったことでしょう。

3. **初糰散布**： 12 月に 2 度行いました。（才川 寿磨）

水田稲作部会

11 月 15 日の名戸小収穫祭（小学生、先生、父母、ピオトープ会員）での餅つき用に餅米約 70kg を使用。11 月 29 日に行われたピオトープ収穫祭（会員約 30 名参加）に約 30kg 使用。残り 34kg の中、約 20kg を配布、その分の寄付をいただきました。（小笠原 智）



杵は重いなあ

「育てる会」のみなさんありがとう

名戸小 5 年生の感想文から

わたしはかまど係なので、ずーっと「目が痛い、目が痛い」とさげんでいました。そしてとうとうおもちが食べられる時、私はずーっと黄粉の場所にいて、食べ続けていました。なえが、こんなに立派なおもちになったことは、とてもうれしく、感動でした。

（上川 亜利）

最初に火起こしをしていたら、けむりもくもく目にしみてとても痛かったです。おもちをつくのキネを持ったら思った以上におもかったです。でも育てる会の人に教えてもらい、うまくつけました。私たちの班はしょうゆでした。しょうゆは大人気で、のりが足りなくなりました。本当に楽しかったです。

（木村 愛望）

- 名戸ヶ谷小学校阿部先生から届いた生徒感想文より抜粋

カワセミ現れる

昨年 11 月以降カワセミがピオトープで度々観察されています。場所は A ゾーンの鯉のいる池、又は B ゾーンの掲示板前辺りで、どちらも水深のあるところ。餌となる小魚を捕るためか水浴びに来ているようです。鳥の宝石と云われ、コバルト色の背と橙色の腹部をもった嘴の長い鳥です。“テイ-”とか“ツ-”と鳴きながら飛んでいます。非常に警戒心の強い鳥ですから離れたところからの観察（できれば双眼鏡で）を勧めます。（篠崎 将）



NPO法人化へ向けて

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の幹事会では、特定非営利活動促進法(通称NPO法)に基づく法人格の取得を検討しています。その必要性として、例えば、以下のようなことを考えています。

- ・ 名戸ヶ谷ビオトープを育てて行くためには、長い年月を必要とすること。そのため、できるだけ多くの市民に参加していただく市民活動にしたいこと。
- ・ 名戸ヶ谷ビオトープの活動に関わることで、自然の大切さを広く市民と共有できること。
- ・ 市民と行政が力を合わせて進める町づくり活動であること。

このような活動を推進していくためには、この会が自立した組織として長期に亘って活動を継続していく必要があります。そのための道具としてNPO法人格の取得を検討していきます。検討の経過につきましては、逐次お知らせしていきますのでご意見等頂けましたら幸いです。(小島 琢夫)

千葉県エコマインド講座の交流会に参加して

12月17日に行われたエコマインド(環境学習指導者養成講座)の市町村職員との交流会に参加し、名戸ヶ谷ビオトープの整備までの経過と育てる会の活動状況を紹介しました。今回の発表は意外な反響があり、翌日には早速某市役所からビオトープについての問い合わせを受けました。これからも、このような機会を活用して名戸ヶ谷ビオトープをPRしていきたいと思います。(環境保全課 橋爪)

名戸ヶ谷の昔

鈴木宏さん(61歳) 談 (自宅にて)



ここへ越してきた42~3年前当時、家の裏の高いところは全て山林で、水野さんの家以外に他に一軒の家もなく、家の前は今の名戸ヶ谷病院の辺りから新柏の方まで全部田圃でした。今のバス通りは当時の堀を拡張したもので、この堀が今の病院駐車場フェンス前の堀(小川)と「回生の里」の前でコの字に繋がっていて、「回生の里」の前辺りに高い場所の田圃に水を入れる堰があったわけです。この二つの堀は今の名戸ヶ谷小を出た辺りで合流し、大津川に流れ込んでいました。当時はヘビも多かった。ヤマカガシ、アオダイショウ、シマヘビ……隣家との間にヘビの主がいてね、うちの息子もヘビを飼っていましたよ。昔の堀は水もきれいで、子どもは網をかけてフナ、ドジョウ、コイを捕って遊んだものです。水深50cmはあったからね。泳いでいる魚が見えるのですよ。今年34才になる

次男が入学第一期生となる名戸小ができる以前は、みんな近くの第八小学校まで赤土の砂利道を歩いて通ったものです。光が丘団地ができてからは、流れてきて堰にあふれた石けん水の泡が家まで飛んでくるし、堀の青草も枯れて、ブタ草とヌルばかり増えてね。それに、つくしが丘の排水も流れ込んできて、市の方でもっと早くから堀の幅を広げたり、下流から工事をすべきだったね。昔はホタルは何百、何千匹といて家の中まで飛び込んできて、すごかったね。電気を消すと家の中でピカピカ光ってね。その頃は周辺に農家の家がちよぼちよぼあるくらい。夜になって電灯も消えると辺り一面真っ暗でしたよ。

去年田圃が始まってからか、オニヤンマが特別多く姿を見せるようになり、家の中まで入ってきますよ。それにアオスジアゲハも、カワセミは以前からいたけれど、コガモが20羽以上姿を見せたり、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヨシキリ、メジロ、シジュウガラ、ウグイスも見かけるようになったね。湧水の水はきれいなことから、田圃の人たちのように、もっと注意を払って、ホタルによい環境を整えてほしいものだね。(聞き書き 広報編集部)

昨年田圃が始まってからか、オニヤンマが特別多く姿を見せるようになり、家の中まで入ってきますよ。それにアオスジアゲハも、カワセミは以前からいたけれど、コガモが20羽以上姿を見せたり、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヨシキリ、メジロ、シジュウガラ、ウグイスも見かけるようになったね。湧水の水はきれいなことから、田圃の人たちのように、もっと注意を払って、ホタルによい環境を整えてほしいものだね。(聞き書き 広報編集部)

編集後記

ビオトープの一年を振り返る、と題しながら、スペースの関係上、数多くの写真の中から6枚しか紹介できませんでした。また、佐々木光正氏が写真集を作成し、「ビオトープの四季」と題して一年間のビオトープの植物の貴重な記録を残してくれました。一年を経過したビオトープ。みなさん、お天気のよい日にでも、一度ビオトープに足を運んでみませんか。 広報編集部 (春山)